

平成27年度 功 勞 賞 受 賞 者

(市町村体育協会推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
1	さとう しょういち 佐藤 庄一	昭和48年 4月～平成 5年 3月 寒河江市体育協会 理事 平成 5年 4月～15年 4月 寒河江市体育協会 常任理事 平成15年 5月～23年 4月 寒河江市体育協会 副会長 平成23年 5月～27年 4月 寒河江市体育協会 会長	寒河江市 体育協会	昭和48年から平成27年まで42年の長きにわたり、寒河江市体育協会の役員として、各種スポーツ大会運営やスポーツ競技人口拡大推進に尽力され、寒河江市スポーツの振興並びに本協会の発展に大きく貢献された。
2	ゆうき じゅいち 結城 壽一	平成 7年 4月～13年 3月 大江町体育協会 副理事長 平成13年 4月～17年 3月 大江町体育協会 理事長 平成17年 4月～27年 3月 大江町体育協会 副会長 昭和61年 4月～現在 大江町スポーツ推進委員(現在副会長)	大江町 体育協会	大江町体育協会副理事長、理事長、副会長を歴任された。永年にわたり、地域スポーツの普及、推進に尽力され、本町スポーツの振興、発展に大きく貢献された。
3	おいかわ くにお 及川 國男	平成17年 4月～19年 3月 尾花沢市体育協会 副会長 平成19年 4月～27年 3月 尾花沢市体育協会 会長	尾花沢市 体育協会	尾花沢市体育協会の役員を通算して10年間務め、本市体育協会の発展に多大な尽力をされた。また、尾花沢市におけるソフトボール競技の普及・振興のため永年にわたって寄与され、さらには本協会会長として市全般にわたるスポーツ各種事業、市民スポーツの普及・振興、青少年の健全育成等に多大なる貢献をされた。
4	すずき はるお 鈴木 春夫	昭和57年 4月～平成10年 3月 飯豊町体育協会 副会長 平成10年 4月～25年 3月 飯豊町体育協会 会長	飯豊町 体育協会	昭和57年より飯豊町体育協会副会長、平成10年より会長として長きにわたり重責を担われ、本町のスポーツ振興に多大な貢献をされた。平成7年には飯豊町グラウンドゴルフ協会を設立し、初代会長として現在も務められ、平成17年より置賜地区グラウンドゴルフ協会会長、さらに県グラウンドゴルフ協会副会長として現在も務められ、グラウンドゴルフ競技の普及・拡大に尽力されている。

(競技団体推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
1	さとう けんいち 佐藤 賢一	昭和47年 4月～現在 米沢水泳連盟 会員 平成21年 4月～現在 米沢水泳連盟 副会長 昭和58年 4月～現在 山形県水泳連盟 飛込委員 平成元年～12年、20年～現在 山形県水泳連盟 飛込委員長	山形県 水泳連盟	山形県飛込競技の指導者並びに競技運営者として長年尽力され、多くの全国大会入賞選手の輩出に貢献されている。「べにばな国体」時には、飛込競技監督として大会を成功に導き、本県の飛込競技の発展・普及に果たした功績は多大である。また、飛込競技の全国大会審判や競技役員としても、長年にわたり尽力されている。
2	しょうじ としひろ 荘司 敏博	平成 7年 4月～23年 2月 山形陸上競技協会 理事 平成23年 2月～現在 山形陸上競技協会 副会長	山形 陸上競技 協会	山形陸上競技協会理事として長年にわたり組織運営に携わり、平成21年から本協会の組織改革検討委員として「法人化」の推進、組織改革に尽力し、平成23年2月29日から法人の代表理事兼副会長となり、本県陸上競技の発展に貢献された。
3	しもやま しげる 下山 茂	昭和60年 4月～平成12年 3月 山形県ボクシング連盟 理事 平成12年 4月～現在 山形県ボクシング連盟 常任理事	山形県 ボクシング 連盟	長年にわたり、山形県ボクシング連盟総務委員長として、本県開催の東北大会や全国大会等の運営に携わり成功に導き、本連盟の発展に寄与された功績は大きい。
4	いしい まさひろ 石井 正宏	平成 3年 4月～23年 3月 山形県バレーボール協会 幹事 平成23年 4月～27年 3月 山形県バレーボール協会 副理事長 平成 5年 4月～20年 3月 山形地区バレーボール協会 常任理事(審判委員長) 平成20年 4月～27年 3月 山形地区バレーボール協会 副理事長(審判委員長) 平成 5年 4月～27年 3月 日本バレーボール協会A級公認審判員	山形県 バレーボール 協会	平成3年度から26年度まで、山形県バレーボール協会幹事及び副理事長として会計事務を長年担当し、本協会の円滑な運営に果たした功績は多大なものがある。また、平成5年度から26年度まで、日本バレーボール協会A級公認審判員として数多くの全国大会、東北大会等で活躍するとともに、山形地区審判委員長として後進の指導・育成に尽力した。
5	さいとう まさし 齋藤 雅志	平成 8年 4月～18年 3月 田川地区体操協会 理事長 平成18年 4月～現在 田川地区体操協会 会長 平成18年 5月～現在 山形県体操協会 副会長 昭和62年 4月～20年 3月 山形県ジュニア体操協議会 事務局長	山形県 体操協会	永年にわたり、田川地区体操協会理事長・会長、県体操協会副会長及び県ジュニア体操協議会事務局長として諸事業並びに大会運営に尽力され、本県体操競技の発展に寄与した功績は誠に顕著である。現在も、指導者としてジュニア選手の強化・育成に尽力されている。

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
6	ささき いさむ 佐々木 勇	昭和45年 4月～63年 3月 山形県バスケットボール協会 理事 昭和63年 4月～平成11年 3月 山形県バスケットボール協会 常任理事 平成17年 4月～27年 3月 山形県バスケットボール協会 副会長	山形県 バスケットボール 協会	地区協会審判部長を務める傍ら、全日本の国際審判員を山形県に招聘し審判講習会を開催して審判員の育成に努め、県内審判員のレベルアップに貢献した。「べにばな国体」では、バスケットボール競技の報道部長として大会運営・広報に尽力し、大会を成功に導いた。川西町で毎年開催される「ダリア杯」を創設し、県内各地区から多くの社会人チームを招集するなど、県内社会人バスケットボールの普及・強化に尽力した。また、平成26年度から、置賜地区の高校チームと社会人チームが同一大会で競い合う、自身の名を冠した「佐々木杯」を創設し、置賜地区バスケットボールの発展にも寄与している。本県バスケットボール競技の普及と発展に貢献した功績は誠に大きい。
7	かなまる たけお 金丸 武夫	昭和52年 4月～平成 9年 3月 鶴岡地区卓球協会 常任理事 平成 9年 4月～22年 3月 鶴岡地区卓球協会 副会長 平成22年 4月～現在 鶴岡地区卓球協会 会長 平成22年 4月～現在 山形県卓球協会 副会長 平成11年 4月～17年 3月 県中体連卓球専門部 部長	山形県 卓球協会	昭和42年大学卒業後、中学校教師として各校の卓球部顧問となり、卓球の普及・発展、競技力向上を目指し活動した。卓球技術の指導には特筆するものがあり、毎年優秀な選手を育成した。特に立川中学校勤務時には、全国中学校卓球大会(昭和52年)において齋藤清選手を男子シングルス優勝に導いている。後に齋藤選手は全日本卓球選手権大会では8回優勝し、日本代表選手として国際大会でも大いに活躍した。県中体連卓球専門部長、県卓球協会副会長として東北・全国大会規模の大会運営の陣頭指揮にあたり、大会を成功裡に導いた。平成27年の日韓青少年交流事業の受け入れでは、陣頭指揮にあたり手腕を発揮し、事業の目的達成に貢献した。
8	えのもとよしかず 榎本 芳一	昭和58年 3月～現在 鶴岡地区野球連盟 審判部 平成元年 3月～ 7年 2月 鶴岡地区野球連盟 理事 平成 7年 3月～25年 2月 鶴岡地区野球連盟 事務局長 平成25年 3月～現在 鶴岡地区野球連盟 理事長 平成25年 3月～現在 山形県野球連盟 常任理事	山形県 野球連盟	昭和58年審判の資格取得後、鶴岡野球連盟の審判部として、スポーツ少年団、中学・高校、社会人野球の各種大会の審判部役員として競技運営に尽力した。平成元年より鶴岡野球連盟の理事として社会人野球を中心に鶴岡地区での大会運営、平成7年からは同地区の事務局長として業務に携わり、平成11年度の内野天然芝の鶴岡ドリームスタジアムのオープンやそれを記念した全日本対キューバ戦をはじめ、全日本合宿や日米大学野球選手権大会の運営等に当たった。地元田川地区においては、昭和51年から田川野球スポーツ少年団(当時は卓球)の指導者として、現在はその子どもたちを中心とした田川球友の監督としてチームをまとめ上げている。
9	いしわたりしんいち 石渡 伸一	平成元年 4月～現在 公認審判員 平成 3年 4月～現在 公式記録員 平成 5年 4月～10年 3月 飽海地区ソフトボール協会 理事(記録委員長) 平成10年 4月～22年 3月 飽海地区ソフトボール協会 理事 平成22年 4月～現在 飽海地区ソフトボール協会 理事長 平成10年 4月～26年 3月 山形県ソフトボール協会 理事(記録副委員長) 平成26年 4月～現在 山形県ソフトボール協会 理事(記録委員長)	山形県 ソフトボール 協会	平成元年から審判員として、平成3年からは記録員として、地域における審判、記録業務に精励されるとともに、平成5年からは飽海地区協会記録委員長として記録員の育成指導に尽力された。また、平成20年第7回全日本エルデスト大会の開催に尽力されるとともに、平成25年全日本一般男子大会の開催においては、飽海地区協会理事長として大会を成功に導かれた。さらに、平成5年から飽海地区協会常任理事、平成10年から山形県協会理事、平成26年からは県協会の記録委員長と要職を担っており、協会の運営・育成にも尽力されるなどその功績は誠に顕著である。
10	なかしま よしあき 中島 良明	平成 8年 4月～現在 山形県バドミントン協会 副会長 平成 8年 4月～現在 酒田地区バドミントン協会 会長	山形県 バドミントン 協会	永年にわたり、山形県バドミントン協会の副会長として、また、酒田地区バドミントン協会の会長として、バドミントン競技の普及・発展はもとより、東北・全国大会の県内開催時は率先して大会運営等に携わり、協会役員を取りまとめた功績は顕著である。特に、酒田地区バドミントン協会の組織づくりと協会役員の取りまとめや、協会の運営等に尽力された功績は多大である。
11	いたがき たかし 板垣 隆	平成 6年 4月～16年 3月 山形県剣道連盟 理事 平成16年 4月～20年 3月 山形県剣道連盟 副理事長 平成20年 4月～平成25年 3月 山形県剣道連盟 理事長 平成25年 4年～現在 山形県剣道連盟 副会長	山形県 剣道連盟	警察官現役時代、本県代表選手として東北・全国警察官剣道大会及び国民体育大会に出場し活躍した。選手引退後には、長年にわたり警察剣道の発展、山形県剣道連盟の指導者として本県剣道の強化、剣連理事・理事長等の役員として本県剣道の振興・発展に寄与した。警察官退官後は、本県剣道競技力強化、剣道連盟組織の運営、特に各種委員会組織の改革・充実に指導的役割を果たした。特筆すべきは、平成23年全国東西対抗剣道大会山形大会(山市)を成功裡に導いたことである。

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
12	いしだ あきお 石田 昭夫	平成12年4月～26年3月 山形県クレール射撃協会 会長	山形県 クレール射撃協会	平成12年4月より、山形県クレール射撃協会会長を務め、選手育成のほか中央競技団体とのパイプ役として、長年にわたりクレール射撃競技の振興普及に多大なる貢献をされた。また、国体選手として「べにばな国体」等に10回以上出場し、ワールドカップ等の世界大会に日本代表として出場した経験を生かし、若手選手の強化育成に尽力された。
13	ふじた しげお 藤田 茂男	平成12年4月～現在 山形県クレール射撃協会 副会長 平成17年4月～21年3月 山形県クレール射撃協会 副会長兼理事長 平成21年4月～24年3月 山形県クレール射撃協会 副会長兼強化部長 平成22年4月～現在 山形県クレール射撃協会 副会長兼事務局長	山形県 クレール射撃協会	平成12年4月より、山形県クレール射撃協会副会長として会長の補佐を務め、理事長や強化部長等を兼務されたこともあり、現在も事務局長を兼務して協会の中心的役割を担っておられる。また、長年にわたり選手としても活躍され、国民体育大会に25回出場し入賞歴もあり、平成3年にはアジア選手権に日本代表として出場し団体2位という成績を収めている。
14	おおぬき よしと 大貫 義人	平成元年9月～7年3月 山形県バウンドテニス協会 副理事長 平成7年4月～12年3月 山形県バウンドテニス協会 理事長 平成12年4月～24年3月 山形県バウンドテニス協会 会長 平成13年5月～15年4月 (一財)日本バウンドテニス協会 評議員 平成15年5月～23年10月 (一財)日本バウンドテニス協会 理事	山形県 バウンドテニス協会	山形県バウンドテニス協会創立時から、バウンドテニスの普及と組織の運営に尽力し、ニュースポーツ・生涯スポーツであるバウンドテニス競技の普及・発展に大きく貢献された。大会運営では、平成9年開催の全国ねんりんピック並びに平成11年の全国スポレク祭の主管を務め、全国スポレク祭を記念した本協会主催の「さくらんぼの里大会」を12年間開催した。

平成27年度 功労賞(ライオンズスポーツ賞)受賞者

(競技団体推薦)

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
1	つばき ひろし 樫 央	第22回全日本スピードスケート距離別選手権大会 男子 総合部門 優勝 横山碧生(山形中央高) 第65回全国高等学校スケート競技選手権大会 男子 10000m 優勝 横山碧生(山形中央高) 男子チームパシュート 優勝 横山碧生・由井直樹・小林裕幸(山形中央高) 第71回国民体育大会冬季大会スケート競技会 少年男子 5000m 優勝 横山碧生(山形中央高) 少年女子 3000m 優勝 小竹琉湖(山形中央高)	山形県 スケート連盟	山形県スケート連盟強化部長並びに県立山形中央高校スケート部監督として、長年にわたり選手強化に尽力されている。本県スピードスケート界の競技力向上への道を大きく開拓し続けている功績は顕著である。今年度は全日本距離別選手権において、横山碧生選手がソチ五輪代表のウィリアムソン師団選手を破り優勝してW杯出場を果たし、インターハイでも2種目で優勝を飾った。また、第71回冬季国体では、過去最高得点を大幅に更新する123点を獲得し、卒業生を含め3種別での優勝に導いた。
2	きむら ふみひろ 木村 文浩	第70回国民体育大会 カヌー競技 少年男子カヤックフォア 200m 優勝 白田隆之・井上翔太・縄空・木村大翔(谷地高) 少年男子カヤックフォア 500m 優勝 白田隆之・井上翔太・縄空・木村大翔(谷地高)	山形県 カヌー協会	20年以上にわたりカヌー指導を行い、多くの選手を全国優勝に導いている。その指導は、近代的な指導法に現役時代から培った精神的指導を取り入れており、生徒のやる気を引き出している。日々の研鑽は他の模範であり、例年の全国優勝や入賞実績をみるに、本県スポーツ界への貢献は非常に大きい。
3	さとう めぐみ 佐藤 恵	平成27年度全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会 男子カヤックペア 200m・500m 優勝 白田隆之・縄空(谷地高) 男子カヤックフォア 200m・500m 優勝 白田隆之・白田和豊・菊池憲斗・縄空(谷地高)	山形県 カヌー協会	高校・大学在学中、国体等多くの大会で優勝・入賞を果たし、本県カヌー界を牽引してきた。その後、県立谷地高校カヌー部の顧問となり、今年度は全国高等学校総合体育大会の監督として、学校の枠を超えた指導により男子カヤックを4冠に導き、本県の体育・スポーツ活動に大きく寄与された。
4	あきば ちゆき 秋場 千幸	JOCジュニアオリンピックカップ平成27年度全国中学生カヌー大会 女子カヤックシングル 優勝 増川知保(河北中) 女子カヤックペア 優勝 奥山綾乃・平泉真衣(河北中) 女子カヤックフォア 優勝 増川知保・吉田奈未・奥山綾乃・平泉真衣(河北中)	山形県 カヌー協会	大人数部員のカヌー一部でありながらも、選手たち個々の力を引き出す指導で、全国大会入賞に導いている。特に、今年度は女子カヤックを3冠に導き、本県体育・スポーツ活動に大きく寄与された。

平成27年度 感謝状受賞者

(市町村体育協会推薦)

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
1	おおた ふくお 太田 富久雄	平成21年4月～27年3月 大江町体育協会 会長 平成27年4月～現在 大江町体育協会 顧問	大江町 体育協会	永年にわたり、大江町体育協会会長として地域スポーツの普及・振興に尽力され、本協会組織の運営、発展に大きく貢献された。